

栃木県の農業人口を 10 倍に

開倫塾

塾長 林明夫

超高齢化と安価な輸入農産物のために、日本の農業は存亡の危機にあり、栃木県や各市町村の農業もその例外ではないと思われます。

他方、農業を自らのビジネスにしたい個人や企業、健康増進や人生を豊かにするために農業に親しみたい人々も県内はもとより首都圏にも山のように存在します。

また、中には、私のように会社の福利厚生や塾生への教育のために農業に親しみたい企業経営者もいます。

そこで提言したいのは、栃木県の農業人口を今後 12 年間で 10 倍にし、栃木県農業の再生を目指す次の 2 つの取り組みです。

その第 1 は、県内 18 大学と栃木県農業試験所、JA とちぎ中央教育センターと県内外の農産品や食品製造メーカーなどが、栃木県知事直轄で強力なコンソーシアム（連合体）を結成し、「農業高度専門職育成大学院（MOA、マスター・オブ・アグリカルチャー）」を発足することです。世界でもっとも生産性の高いオランダの農業や、アジア、アフリカの農村指導者の育成で高い評価を得ている「アジア学院」などからも学び、農業分野でのグローバル人材の育成も行いたい。

1 学年 100 から 200 名で、12 年で 2000 名以上の高度農業専門職人材を育成したい。

その第 2 は、農業に親しみたい初心者のための「とちぎ農業スクール超入門クラス」です。1 クラス 10 ～ 20 名の少人数クラスを JA とちぎのすべての支所や出張所などで、安価な実費で指導。親切に手取り、足取りでわかりやすく基礎的な知識やスキルを身につけさせ、また、励ましあう仲間づくりも支援。

この 2 つの取り組みの成功の鍵は、カリキュラム、指導者、運営（マネジメント）の開発をどうするかです。県内だけでなく、日本国中の英知を集めて徹底的に議論し、戦略をもって、栃木県独自のこの 2 つの農業人材育成のしくみをつくり、栃木県の農業人口を 10 倍にしたいと思います。

農業分野の人材育成についても栃木県知事の強烈なリーダーシップを期待します。